

令和4年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
9	5	1	社会教育総務費	360

部局名	教育部
課名	文化スポーツ課

I : 事業概要

施策事業名	社会教育一般														
事業目的	社会教育活動の推進に資する事業及び社会教育団体の育成のための補助事業を行う。														
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●全体計画 <ul style="list-style-type: none"> ・市民が主体となり社会教育活動を積極的に展開してもらうため、社会教育団体の育成のための補助事業や社会教育事業推進のための支援を行う。 ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ・社会教育審議会等の開催 ・中学校への吹奏楽部活動指導員派遣事業の実施 ・市民展の開催 ・社会教育団体及び文化事業への補助 ・文化芸術活動全国大会等出場者への賞賜金の支給 ・するすみふれあい広場の管理運営 など ●主な決算の内訳 <table style="margin-left: 20px; border: none;"> <tr> <td>・社会教育委員報酬</td> <td style="text-align: right;">259,200円</td> </tr> <tr> <td>・中学校吹奏楽部活動指導者謝礼</td> <td style="text-align: right;">1,820,000円</td> </tr> <tr> <td>・市民展開催委託料</td> <td style="text-align: right;">1,249,000円</td> </tr> <tr> <td>・社会教育団体補助（6団体）</td> <td style="text-align: right;">1,550,351円</td> </tr> <tr> <td>・文化の薫り高いまちづくり事業補助金</td> <td style="text-align: right;">200,000円</td> </tr> <tr> <td>・文化芸術活動全国大会等出場者賞賜金</td> <td style="text-align: right;">340,000円</td> </tr> <tr> <td>・するすみふれあい広場管理委託料</td> <td style="text-align: right;">951,500円</td> </tr> </table> 	・社会教育委員報酬	259,200円	・中学校吹奏楽部活動指導者謝礼	1,820,000円	・市民展開催委託料	1,249,000円	・社会教育団体補助（6団体）	1,550,351円	・文化の薫り高いまちづくり事業補助金	200,000円	・文化芸術活動全国大会等出場者賞賜金	340,000円	・するすみふれあい広場管理委託料	951,500円
・社会教育委員報酬	259,200円														
・中学校吹奏楽部活動指導者謝礼	1,820,000円														
・市民展開催委託料	1,249,000円														
・社会教育団体補助（6団体）	1,550,351円														
・文化の薫り高いまちづくり事業補助金	200,000円														
・文化芸術活動全国大会等出場者賞賜金	340,000円														
・するすみふれあい広場管理委託料	951,500円														
事業の成果・効果	<p>中学校への吹奏楽部活動指導員派遣事業を継続して実施し、新たに指導員としての採用や一般からプロ指導員への変更など、指導員の質や数等の拡充を行い質の高い指導ができるよう、吹奏楽部顧問の負担を軽減した。</p> <p>犬山市文化芸術活動全国大会等出場者激励費支給を今年度も継続して行い、文化芸術分野における全国大会等出場者34名に対し賞賜金の支給を行い、市民の文化芸術水準の向上を図った。</p>														

II : 個別事業内訳

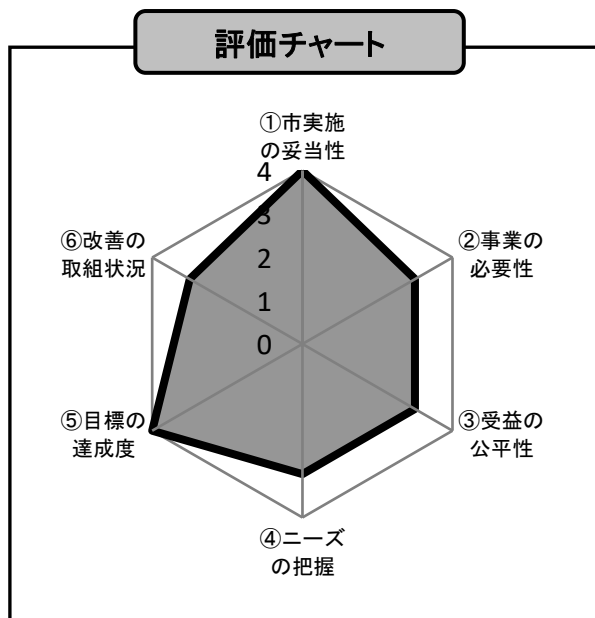
(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
社会教育総務事務	136	0	136	100%	4	4	4
社会教育委員	313	0	313	100%	4	4	2
文化振興	3,910	0	3,910	100%	4	4	4
社会教育団体補助	1,550	0	1,550	100%	3	3	2
するすみふれあい広場管理	1,452	43	1,409	97%	2	2	2
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	7,361	43	7,318	99%	3	3	2

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R3決算	R4決算	R5予算
		6,949	7,361	8,632
財源内訳	国県支出金	614	0	403
	地方債	0	0	0
	その他	307	43	247
	一般財源	6,028	7,318	7,982
一般財源の割合		87%	99%	92%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	社会教育委員については、社会教育法第15条、犬山市社会教育委員設置条例第1条において設置することとしている。
②事業の必要性	3	犬山市立中学校吹奏楽部部活動指導員派遣事業については、教員の多忙化や指導者不足の解消のため今後さらに必要性が高まっていく事業である。社会教育団体への補助については、ガイドラインに沿った交付を行う。
③受益の公平性	3	市民で構成される社会教育団体への補助等は少数の市民を対象とする事業である。
④ニーズの把握	3	犬山市立中学校吹奏楽部部活動指導員派遣事業については、吹奏楽部顧問への聞き取りを実施し、意見を反映している。
⑤目標の達成度	4	社会教育団体（6団体）への補助であり、各団体の事業計画に沿った活動を遂行することができている。
⑥改善の取組状況	3	各事業が適正に実施されるよう、今後も検証を続けていく。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和4年度に見直しを実施した事項	文化の薫り高い補助金事業について、対象事業の幅を広げるため支援メニューを拡充した。
令和5年度に見直しを実施している事項	教育委員会に必置義務のある社会教育主事の資格取得者を確保するため、職員の研修会参加を予定している。
今後見直しを検討する事項	市民が主体となって実施する生涯学習事業の支援の在り方について検討していく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和4年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
社会教育団体への補助について、補助金ガイドラインに沿った支援を継続して行っていく必要がある。	社会教育団体への支援の在り方について継続して検討していく。

令和4年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
9	5	1	社会教育総務費	360

部局名	教育部
課名	文化スポーツ課

I : 事業概要

施策事業名	生涯学習
事業目的	市民が幅広い教養や知識を身につけることを目的に、生涯学習機会の提供、生涯学習活動の支援を行う。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●全体計画 <ul style="list-style-type: none"> ・市民ニーズに合った魅力ある生涯学習事業を展開するとともに、生涯学習情報の提供を行う。 ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ・市民総合大学の開催 ・子ども大学の開催 ・ロボット塾の開催 ・生涯学習出前講座の実施 ・市民講師登録制度の活用 ●主な決算の内訳 <ul style="list-style-type: none"> ・市民総合大学講師謝礼 1,909,000円 ・市民総合大学開催委託料 980,990円 ・子ども大学開催委託料 6,875,889円 （「土曜日の教育支援体制等構築事業費県補助金」事業費の2/3補助） ・ロボット塾開催委託料 425,700円 （「土曜日の教育支援体制等構築事業費県補助金」事業費の2/3補助） ・ICT相談業務委託料 1,581,450円
事業の成果・効果	「市民総合大学敬道館」及び「子ども大学」ではオンライン配信なども利用して全講座を実施した。「子ども大学」等各種生涯学習講座では、NPO団体や社会教育団体との連携により開催した。

II : 個別事業内訳

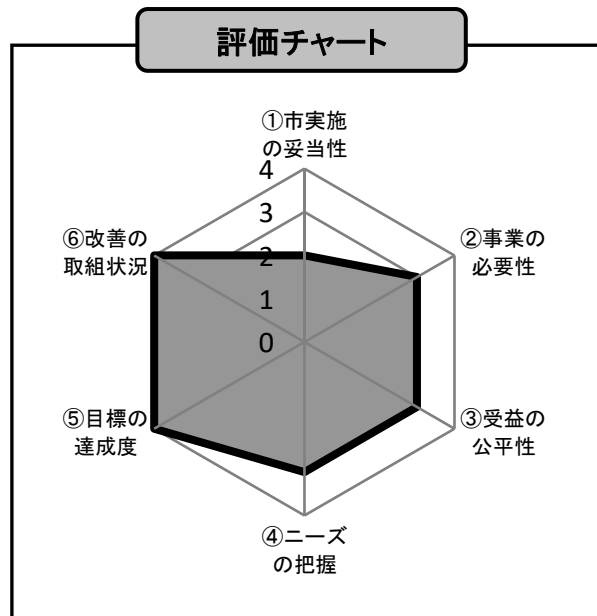
(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
市民総合大学	3,897	1,600	2,297	59%	4	4	4
生涯学習講座	8,889	4,685	4,204	47%	4	4	4
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	12,786	6,285	6,501	51%	4	4	4

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R3決算	R4決算	R5予算
		11,747	12,786	14,445
財源内訳	国県支出金	3,746	3,781	4,306
	地方債	0	0	0
	その他	2,450	2,504	3,325
	一般財源	5,551	6,501	6,814
一般財源の割合		47%	51%	47%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	2	健康寿命が延伸する中、市民が生涯にわたって学び続けることができる生涯学習機会の提供は、必要である。事業によっては、市内NP0団体等地域との連携により実施したものもあったが、実施主体としては、民間の可能性を検討する。
②事業の必要性	3	「市民総合大学敬道館」は延べ721名が受講。全講座を実施。「子ども大学」は受講者数226名が参加をし、市民の生涯学習の場として寄与した。
③受益の公平性	3	少数の市民が対象となる事業ではあるが、受益者負担とし、相応の参加料を徴収している。
④ニーズの把握	3	受講者に対し事業終了時にアンケートを実施しており、受講者のニーズ及び満足度を把握している。
⑤目標の達成度	4	オンライン配信などのお試し受講を実施し、工夫を行いながら、当初計画していた事業を全て実施した。
⑥改善の取組状況	4	今後も利用者、時代のニーズに合った事業内容、適正な参加料について検討していく。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和4年度に見直しを実施した事項	市民総合大学敬道館では、教養講座の一部で受講生以外に無料でオンライン配信をし、市民総合大学の周知を行った。 子ども大学では、令和元年度以来、会場で開催することができなかった成果発表会を実施し、参加者に講師や受講生の生の声を伝えることができた。
令和5年度に見直しを実施している事項	市民総合大学敬道館では、受講生の高齢化が見受けられるため、公開講座に若い世代の講師を招き、受講者の若返りを目指す。 子ども大学では、新たにサイクリングの講座を開設することにより、自然に触れながらスポーツの楽しさを感じる講座を実施する。
今後見直しを検討する事項	市民のニーズを反映した生涯学習事業の内容について検証するとともに、受益者負担の考え方のもと、適正な参加料とともに、支払方法の簡便化について検証する。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和4年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
「市民総合大学敬道館」では、高齢者の参加率は高いが、若年層の参加率が低い。幅広い世代が参加できるよう環境整備や講座内容の検討を継続していく必要がある。	市民のニーズや地域のニーズを的確に把握し、幅広い世代が参加できる生涯学習事業を展開する。

令和4年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
9	5	2	青少年育成費	364

部局名	教育部
課名	文化スポーツ課

I : 事業概要

施策事業名	青少年育成								
事業目的	青少年の悩みごとに対する助言及び指導と、非行防止や環境浄化など青少年の健全育成を図る活動の拠点として、青少年センターを運営する。								
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●全体計画 <ul style="list-style-type: none"> ・青少年の健全育成及び困難を抱える子ども若者を支援するため、青少年センターを適正に運営する。 ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ・青少年問題協議会の開催 ・青少年センターの運営 ・青少年健全育成団体への補助の実施 ●主な決算の内訳 <table style="margin-left: 20px; border: none;"> <tr> <td>・青少年問題協議会委員報酬</td> <td style="text-align: right;">288,000円</td> </tr> <tr> <td>・青少年問題協議会講演会講師謝礼</td> <td style="text-align: right;">60,000円</td> </tr> <tr> <td>・機器設置等工事請負費</td> <td style="text-align: right;">244,200円</td> </tr> <tr> <td>・青少年団体補助</td> <td style="text-align: right;">230,595円</td> </tr> </table> 	・青少年問題協議会委員報酬	288,000円	・青少年問題協議会講演会講師謝礼	60,000円	・機器設置等工事請負費	244,200円	・青少年団体補助	230,595円
・青少年問題協議会委員報酬	288,000円								
・青少年問題協議会講演会講師謝礼	60,000円								
・機器設置等工事請負費	244,200円								
・青少年団体補助	230,595円								
事業の成果・効果	<p>青少年問題協議会において青少年を取り巻く状況について分析し、課題解決に向けた提言をまとめることができた。また、同協議会の下に作られた青少年健全育成市民会議の機能を活用し、地域に根差した青少年健全育成活動を展開している。青少年健全育成講演会や困難を抱えた子ども若者支援のための研修会を開催するなど、青少年健全育成のための事業を積極的に推進した。事後アンケートからも高い評価を受けた。上記講演会や研修会の講師料や青少年センター啓発用リーフレットについては、国の地域自殺対策緊急強化基金事業補助金(2/3補助)を充てることで、自主財源の抑制に努めた。</p> <p>青少年センターへの相談者の電話が直接相談員つながるよう、留守番電話装置付電話を設置した。二十歳の集い(成人式)がコロナの感染対策に気をつけて実施できるように市として支援を行った。</p>								

II : 個別事業内訳

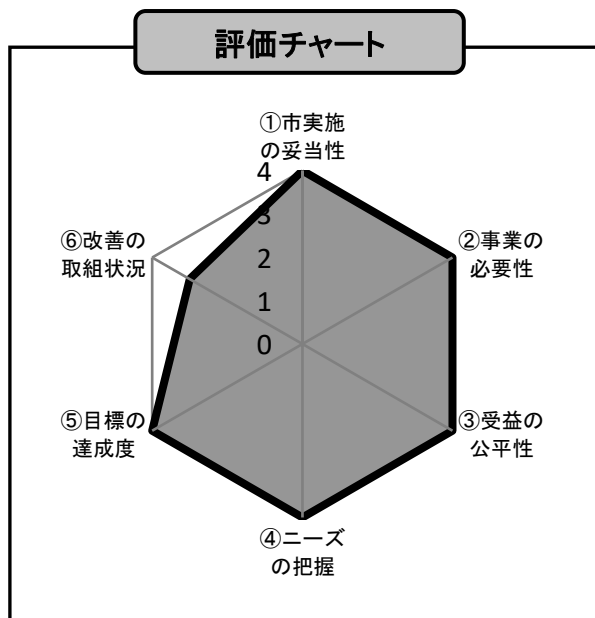
(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
青少年問題協議会委員	363	40	323	89%	4	4	4
青少年センター運営	693	60	633	91%	4	3	4
青少年団体補助	231	0	231	100%	2	2	2
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	1,287	100	1,187	92%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R3決算	R4決算	R5予算
		850	1,287	1,418
財源内訳	国県支出金	109	100	150
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	741	1,187	1,268
一般財源の割合		87%	92%	89%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	地方青少年問題協議会法に基づき犬山市青少年問題協議会を設置。同協議会の委員を配置する青少年センターについては、いじめ、引きこもり等、困難を抱える子ども若者の支援を繋ぐ機関であり、市が実施主体となり運営する必要がある。
②事業の必要性	4	いじめ、引きこもり等、困難を抱える子ども若者が増加している現状を受け、今後も継続的に青少年センターを核として支援していく必要がある。
③受益の公平性	4	対象者は少数の市民であるが、国の自殺対策補助金等、自主財源以外の資金の活用を図っている。
④ニーズの把握	4	青少年センターで実施する講演会、講座等では、受講者にアンケートを毎回実施し次年度の活動に生かしている。
⑤目標の達成度	4	新型コロナウイルスの感染対策を行いながら、年度当初の計画を実施することができた。また、目標についても概ね達成することができた。
⑥改善の取組状況	3	困難を抱える子ども若者を支援するための仕組みづくりについて、今後も検証していく。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和4年度に見直しを実施した事項	発達障がいの子どもの上手な支援の研修会の内容を充実させるため、前年度アンケート結果をもとに、テーマを設定し、研修会参加者への支援の充実を図った。
令和5年度に見直しを実施している事項	発達障がいの子どもの上手な支援の研修会への参加がしやすいように、平日だけではなく、土曜日にも開催する。また、青少年の健全育成を目指すために、令和5年度より講演会の内容を変更し、青少年の実情に合わせることで充実させる。
今後見直しを検討する事項	「二十歳の集い実行委員会」と「二十歳の集い応援団」の自立を図るよう、支援体制を整えていく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和4年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
多様な相談内容に対応できる相談員(人材)の確保が必要である。	今後も地域、学校と連携し、困難を抱える子ども若者の支援を行う必要があるため、適正に相談員を配置する。

令和4年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
9	5	3	公民館費	366

部局名	教育部
課名	文化スポーツ課

I : 事業概要

施策事業名	南部公民館管理運営
事業目的	南部公民館を生涯学習の場として有効に活用することにより、市民の教養向上、健康の増進、生活文化の振興及び社会福祉の増進を図る。
事業内容	<p>●全体計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民、団体の自主的な生涯学習活動及びサークル活動の拠点施設として貸館業務を行った。 南部公民館の管理・運営を適正に行った。 施設を将来にわたって使用していくため、必要な営繕・工事を行った。 <p>●主な事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 公民館講座を前期7講座、後期8講座開催し、149名の受講があった。 学校卒業後の障害者の学びを支援するため、公民館講座を拡充して特別講座を開催した。 ①染物ワークショップ(7名)と②スマホ写真マスター(11名)の2講座を開催した。 文化芸術活動を行う市民に発表の場を提供し、4団体による市民ギャラリーを実施した。 <p>●主な決算の内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> 公民館講座講師謝礼 522,000円 公民館講座開催委託料<拡充> 665,500円 (文科省：障害者の学びの支援に関する実践研究事業委託) 総合設備管理業務一括委託料 8,817,600円 公民館管理業務委託料 1,865,553円 舞台関係統合管理業務委託料 7,200,600円
事業の成果・効果	<p>○自主的な生涯学習の場を市民に提供するために貸館業務を行った。</p> <p>○障害者の学びを支援するため、文部科学省の補助事業を活用し、障害者が参加可能な公民館講座を開催した。</p> <p>○コロナウイルスの影響により中止していた料理やパンなどの講座を再開し、多くの方々の参加を得た。</p>

II : 個別事業内訳

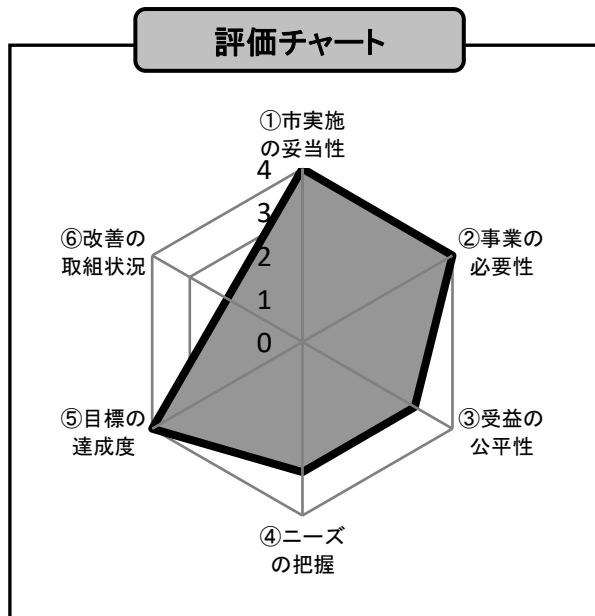
(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
公民館審議会委員	50	0	50	100%	3	3	2
南部公民館管理	28,866	5,477	23,389	81%	3	3	2
南部公民館講座	1,230	1,230	0	0%	4	3	2
南部公民館営繕	1,276	0	1,276	100%	4	2	4
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	31,422	6,707	24,715	79%	3	2	2

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R3決算	R4決算	R5予算
		25,657	31,422	36,789
財源内訳	国庫支出金	0	1,177	1,500
	地方債	0	0	0
	その他	3,695	5,530	5,312
	一般財源	21,962	24,715	29,977
一般財源の割合		86%	79%	81%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	社会教育法(昭和24年法律第207号)第20条、公民館の設置及び管理に関する条例により設置している施設である。
②事業の必要性	4	市民の豊かな文化的生活と教養に必要な事業である。
③受益の公平性	3	少数の市民しか対象となっていない事業であるが、受講料や使用料など相応の負担を求めて実施している事業である。
④ニーズの把握	3	事業開催時に利用者アンケートを実施し、意見を集約している。
⑤目標の達成度	4	障害のある人が気軽に参加できるような分野の講座を開講した。コロナウイルスの感染拡大防止のため開講を見合わせていた料理、パン、お菓子の講座を再開し、多くの受講者を獲得することができた。
⑥改善の取組状況	2	施設の長寿命化のため、適切な修繕を行った。新たな分野、新たな対象者向けの講座を開講した。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和4年度に見直しを実施した事項	・障害のある方でも気軽に参加できるように、染め物講座とスマホを使った写真講座を開催した。
令和5年度に見直しを実施している事項	・引き続き障害者に学びの機会を提供するため、気軽に参加することができる講座を開講する。
今後見直しを検討する事項	・空調をはじめエレベーターや舞台機構等、経年劣化が進んでいる設備の更新計画など、施設の長寿命化のための課題の整理が必要である。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和4年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
施設・設備の老朽化が進行する中での効率的な修繕の実施。	優先順位をつけ、計画的な修繕を行う。

令和4年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
9	5	3	公民館費	366

部局名	教育部
課名	文化スポーツ課

I : 事業概要

施策事業名	小規模公民館						
事業目的	小規模公民館を生涯学習の場として有効に活用することにより、市民の教養向上、健康増進を図る。						
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●全体計画 <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習活動の場を市民に提供するため、小規模公民館(塔野地公民館、善師野公民館)を、適正に管理運営する。 ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ・施設の貸館業務 ・施設の営繕修繕 ・施設管理に必要な各種委託 ・借地手続き ●主な決算の内訳 <table style="margin-left: 20px; border: none;"> <tr> <td>・公民館管理業務委託料</td> <td style="text-align: right;">3,041,152円</td> </tr> <tr> <td>・光熱水費</td> <td style="text-align: right;">1,013,704円</td> </tr> <tr> <td>・修繕料</td> <td style="text-align: right;">511,560円</td> </tr> </table> 	・公民館管理業務委託料	3,041,152円	・光熱水費	1,013,704円	・修繕料	511,560円
・公民館管理業務委託料	3,041,152円						
・光熱水費	1,013,704円						
・修繕料	511,560円						
事業の成果・効果	小規模公民館について、自主的な生涯学習の場を市民に提供するため、貸館事業を行った。施設を良好に保つためにファシリティマネジメントの視点を取り入れながら、修繕計画により、施設の適正な維持管理を行った						

II : 個別事業内訳

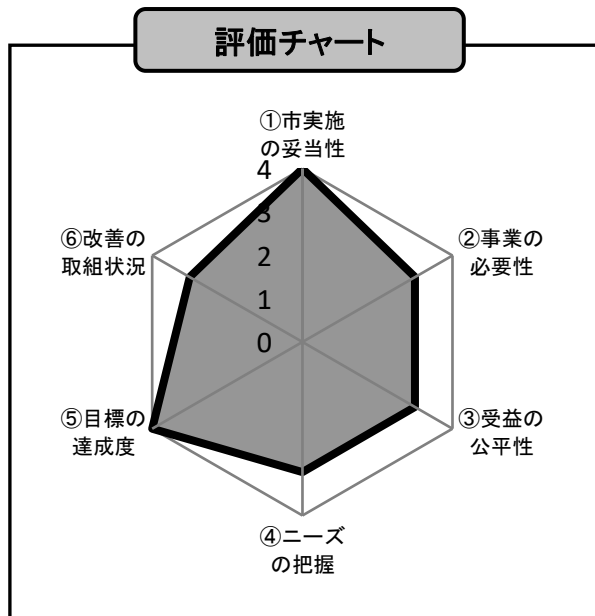
(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
小規模公民館施設管理	5,446	259	5,187	95%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	5,446	259	5,187	95%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R3決算	R4決算	R5予算
		5,994	5,446	7,710
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	208	259	235
	一般財源	5,786	5,187	7,475
一般財源の割合		97%	95%	97%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	社会教育法（昭和24年法律第207号）第20条、公民館の設置及び管理に関する条例により設置している。
②事業の必要性	3	小規模公民館は2か所とも市と区の協定に基づき設置された施設である。
③受益の公平性	3	条例に基づき使用料を徴収しているが、特定の団体による減免利用が多い。
④ニーズの把握	3	施設に管理人を配置し、常時利用者の声を聴く体制を整えている。長らく塔野地公民館の実験実習室（調理室）の利用頻度が低い状態が続いていたが、今年度に入り定期的な利用があることを把握したため、網戸の張替、防災カーテンの取替などの修繕を実施した。
⑤目標の達成度	4	利用者の安全を確保するため、塔野地公民館のタイルの浮きを修繕する等、計画的に修繕することができた。
⑥改善の取組状況	3	ファシリティマネジメントの視点を取り入れながら、老朽化した施設のあり方を検証している。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和4年度に見直しを実施した事項	施設に放置された所有者不明物品について、整理を行った。
令和5年度に見直しを実施している事項	施設や設備の老朽化に伴い、施設の管理・運営について検証する。
今後見直しを検討する事項	施設や設備の老朽化に伴い、施設の管理・運営について検証する。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和4年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
老朽化した施設の安全性を確保しつつ、どのように維持管理していくか検討する必要がある。	今後も優先順位をつけて施設の修繕を適正に実施していく。

令和4年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
9	5	4	学習等供用施設費	368

部局名	教育部
課名	文化スポーツ課

I : 事業概要

施策事業名	学習等供用施設										
事業目的	6つの学習等供用施設を生涯学習の場として有効に活用することにより、市民の教養向上、健康増進を図る。										
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●全体計画 <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習の場を市民に提供するため、市内6カ所の学習等供用施設(犬山南地区学習等供用施設、城東地区学習等供用施設、羽黒地区学習等供用施設、桑田地区学習等供用施設、上野地区学習等供用施設、丸山地区学習等供用施設)の施設管理を適正に行う。 ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ・施設の貸館業務 ・施設の営繕修繕 ・施設管理に必要な各種委託 ●主な決算の内訳 <table style="margin-left: 20px; border: none;"> <tr> <td>・施設管理業務委託料</td> <td style="text-align: right;">17,611,899円</td> </tr> <tr> <td>・光熱水費</td> <td style="text-align: right;">6,943,063円</td> </tr> <tr> <td>・修繕料</td> <td style="text-align: right;">1,896,400円</td> </tr> <tr> <td>・外壁調査委託料(上野地区学習等供用施設)</td> <td style="text-align: right;">220,000円</td> </tr> <tr> <td>・丸山地区学習等供用施設空調更新工事請負費</td> <td style="text-align: right;">2,860,000円</td> </tr> </table> 	・施設管理業務委託料	17,611,899円	・光熱水費	6,943,063円	・修繕料	1,896,400円	・外壁調査委託料(上野地区学習等供用施設)	220,000円	・丸山地区学習等供用施設空調更新工事請負費	2,860,000円
・施設管理業務委託料	17,611,899円										
・光熱水費	6,943,063円										
・修繕料	1,896,400円										
・外壁調査委託料(上野地区学習等供用施設)	220,000円										
・丸山地区学習等供用施設空調更新工事請負費	2,860,000円										
事業の成果・効果	学習等供用施設において、適宜維持管理修繕をしながら、市民や近隣小中学校の自主的な生涯学習の場を提供した。 施設を良好に保つため、ファシリティマネジメントの視点を取り入れながら、修繕計画により、施設の適正な維持管理を行った。										

II : 個別事業内訳

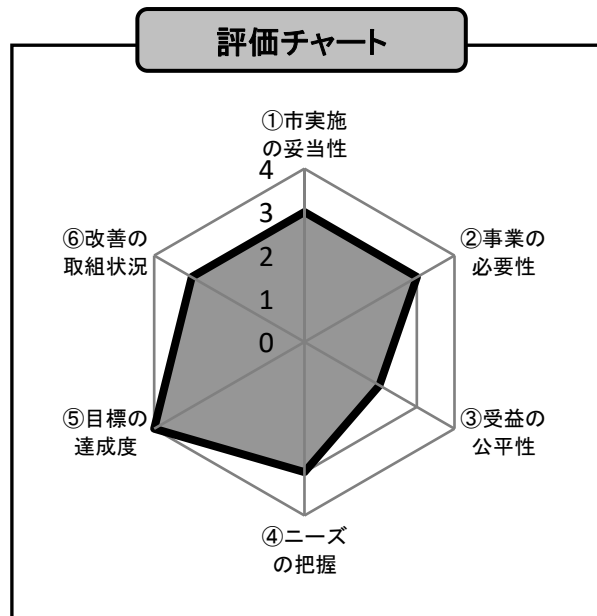
(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
学習等供用施設管理	29,880	2	29,878	100%	3	3	3
学習等供用施設営繕	3,080	0	3,080	100%	4	4	4
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	32,960	2	32,958	100%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R3決算	R4決算	R5予算
		25,528	32,960	39,891
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	2	2	2
	一般財源	25,526	32,958	39,889
一般財源の割合		100%	100%	100%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	学習等供用施設の設置及び管理に関する条例により設置している。
②事業の必要性	3	市民の教育向上、健康増進等、市民の自主的な学びを支援するために設置している施設ではあるが、非常時においては縮小もやむを得ない事業である。
③受益の公平性	2	特定の団体の定期的な利用が多いが、無料施設のため、受益者の負担がない。
④ニーズの把握	3	施設には管理人を配置し、常時利用者の声を聴く体制を整えている。羽黒地区学習等供用施設の保育室で、軽運動などの利用ニーズが多いこと、また、高齢者の利用が多いことを把握したため、床シートの張替を行い、修繕実施に反映させた。
⑤目標の達成度	4	利用者の安全を確保するため、各施設の消防設備点検不具合箇所、犬山南学供の壁面クラック、上野学供のトイレの壁タイルの剥がれ箇所を修繕する等、計画的に修繕することができた。
⑥改善の取組状況	3	ファシリティマネジメントの視点を取り入れながら、老朽化した施設のあり方を検証している。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和4年度に見直しを実施した事項	施設に放置された所有者不明物品について、整理を行った。
令和5年度に見直しを実施している事項	特定建築物定期調査の実施、丸山地区学習等供用施設の屋根営繕工事を行うなど、安全に利用できるための施設の適正な管理を行う。
今後見直しを検討する事項	施設や設備の老朽化に伴い、施設の管理・運営について検証する。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和4年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
老朽化した施設の安全性の確保と維持管理	今後も優先順位をつけて施設の修繕を適正に実施していく。

令和4年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
9	5	5	図書館費	370

部局名	教育部
課名	文化スポーツ課

I : 事業概要

施策事業名	図書館本館										
事業目的	地域の情報発信の拠点として、市民に親しまれる図書館となるため、図書館の適正な管理運営を行う。										
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●全体計画 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の情報発信の拠点として、図書館サービスを展開する。 ・市民の読書活動の推進を行う。 ・市立図書館と学校図書室と情報共有を図り、事業連携を行う。 ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ・図書館における講演会の実施 ・図書館業務システムの適切な運用と維持管理 ・図書購入による資料の充実 ・学校連携司書の配置 ・適切な施設の維持管理 ●主な決算の内訳 <table style="margin-left: 20px; border: none;"> <tr> <td>・図書館講演会等講師謝礼</td> <td style="text-align: right;">300,000円</td> </tr> <tr> <td>・図書館情報システム使用料</td> <td style="text-align: right;">2,881,560円</td> </tr> <tr> <td>・図書購入費</td> <td style="text-align: right;">12,230,610円</td> </tr> <tr> <td>・図書館外壁等改修工事<新規></td> <td style="text-align: right;">51,238,000円</td> </tr> <tr> <td>・駐車場車路管制設備工事<新規></td> <td style="text-align: right;">12,897,500円</td> </tr> </table> 	・図書館講演会等講師謝礼	300,000円	・図書館情報システム使用料	2,881,560円	・図書購入費	12,230,610円	・図書館外壁等改修工事<新規>	51,238,000円	・駐車場車路管制設備工事<新規>	12,897,500円
・図書館講演会等講師謝礼	300,000円										
・図書館情報システム使用料	2,881,560円										
・図書購入費	12,230,610円										
・図書館外壁等改修工事<新規>	51,238,000円										
・駐車場車路管制設備工事<新規>	12,897,500円										
事業の成果・効果	<p>図書館システムを適正に運用し、図書館サービスを安定的に供給することができた。 子ども読書空間を円滑に運営し、図書の適切な配架、イベントの実施により、児童書の貸出しを推進した。</p> <p>子どもの読解力向上のため、学校連携司書の巡回による学校図書室との連携、学校図書館司書との連携セミナーを開催した。</p> <p>図書館サポーターによる、図書の配架、イベントの実施など市民が図書館運営に参加した。 図書館外壁等改修工事、駐車場車路管制設備設置工事を実施、施設の維持管理に努めた。</p>										

II : 個別事業内訳

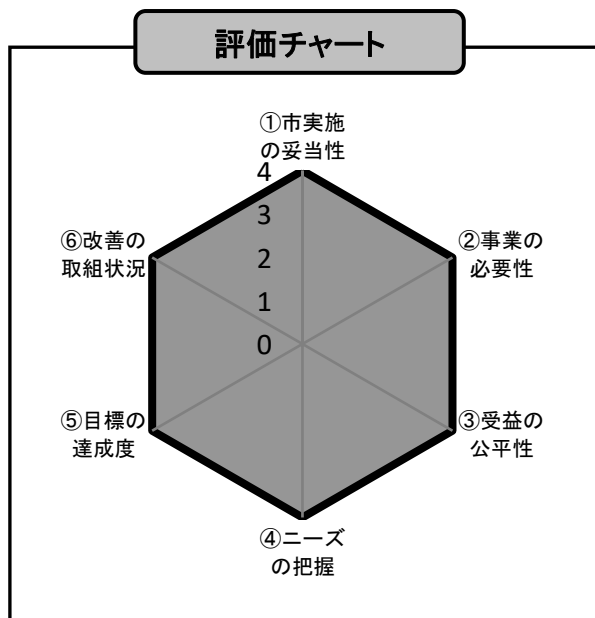
(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
図書館協議会委員	57	0	57	100%	4	4	4
図書館本館管理	35,676	0	35,676	100%	4	4	4
公用車管理(図書館費)	99	0	99	100%	4	4	4
図書館システム運用管理	6,939	0	6,939	100%	4	4	4
図書館図書購入	15,689	0	15,689	100%	4	4	4
図書館営繕	72,517	0	72,517	100%	4	4	4
教育振興(基金)	1	0	1	100%	4	4	4
合計	130,978	0	130,978	100%	4	4	4

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R3決算	R4決算	R5予算
		65,864	130,978	79,604
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	65,864	130,978	79,604
一般財源の割合		100%	100%	100%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	図書館法及び犬山市立図書館の設置及び管理に関する条例に基づき市が設置
②事業の必要性	4	図書館は住民の知る欲求に応えるために自治体が設置し運営するものであり、住民が情報を入手し、教育や文化の発展に寄与する場である
③受益の公平性	4	図書館は乳幼児から高齢者まで住民すべてを対象とし、如何なる住民であっても資料提供の求めに応じるものである。
④ニーズの把握	4	図書館は何人でも利用できる施設であり、メール、窓口、図書リクエスト、図書館協議会など様々な方法で意見を受け取り図書館運営に反映させている。
⑤目標の達成度	4	イベントやおすすめ本等の適切な配架による子ども読書空間の円滑な運用。学校連携司書の巡回、学校図書館司書との連携セミナーの開催。図書館システムの円滑な更新。図書館サポーターによる市民参加の図書館運営ができています。
⑥改善の取組状況	4	安全かつ安心して利用できるよう営繕を適切に実施する。子ども読書活動推進事業を積極的に実施し図書館利用の促進につなげる。従来のサービスを見直し利用者の利便性の向上を図り市民に愛される図書館を目指す。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和4年度に見直しを実施した事項	子どもの読解力向上のため、学校連携司書の巡回による学校図書室との連携及び連携セミナーを開催した。図書館外壁等改修工事、駐車場車路管制設備設置工事を実施、施設の維持管理に努めた。
令和5年度に見直しを実施している事項	子ども読書活動推進計画策定審議会を適正に運営し、第三次子ども読書活動推進計画を策定する。施設を適正に維持管理するため、キュービクル式高圧受電設備更新工事を実施する。
今後見直しを検討する事項	計画的な施設の改修、市民のニーズにマッチしたサービスの提供

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和4年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
施設及び設備、並びにサービスの老朽化、市民のニーズに応え、安心安全にサービスが提供できる施設の維持管理及び運営	計画的な施設の改修、市民のニーズにマッチしたサービスの提供、施設の運用していく。

令和4年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
9	5	5	図書館費	370

部局名	教育部
課名	文化スポーツ課

I : 事業概要

施策事業名	楽田ふれあい図書館
事業目的	楽田ふれあい図書館の管理及び運営を適切に行い、読書活動の推進を図る。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●全体計画 <ul style="list-style-type: none"> ・毎週土曜日、日曜日の午前10時30分から午後5時00分まで開館し、市民に図書館サービスを提供する。 ・学校連携の拠点施設として活用する。 ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ・図書購入による資料の充実 ・学校の授業に役立つ資料の選書（学校連携） ・施設の適正な管理運営 ●主な決算の内訳 <ul style="list-style-type: none"> ・消耗品費 138,281円 ・通信運搬費 103,045円 ・図書購入費 296,097円
事業の成果・効果	楽田小学校図書室と同じ空間で運用する特徴を活かし、学校と連携した企画や運用により子どもの利用者数及び図書の貸出数の増加に努めた。 地域に親しまれる施設となるようイベントを実施し、イベント参加者に施設の魅力を伝えることができた。

II : 個別事業内訳

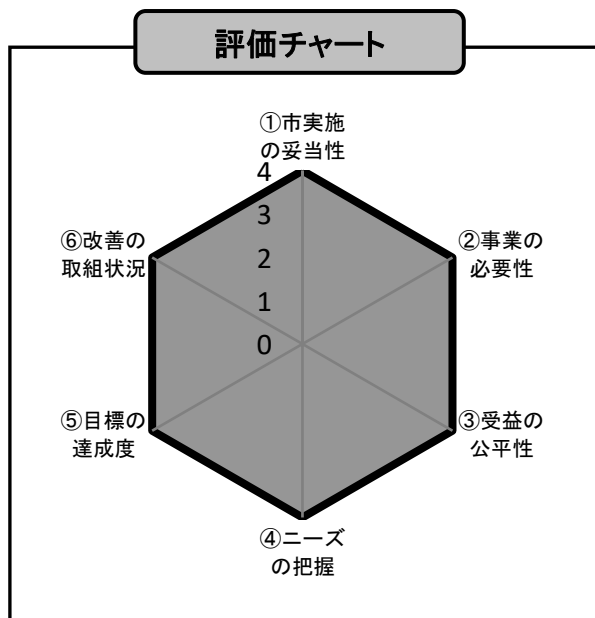
(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
ふれあい図書館管理	538	0	538	100%	4	4	4
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	538	0	538	100%	4	4	4

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R3決算	R4決算	R5予算
		551	538	745
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	551	538	745
一般財源の割合		100%	100%	100%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	住民の知る欲求に答え、様々な図書資料を提供することは自治体としての責務である。
②事業の必要性	4	図書館は住民の知る欲求に応えるために自治体が運営するものであり、住民が情報を入手し、教育や文化の発展に資する場である。
③受益の公平性	4	図書館は乳幼児から高齢者まで住民すべてを対象とし、如何なる住民であっても資料提供の求めに応じるものである。
④ニーズの把握	4	図書館は何人でも利用できる施設であり、メール、投書、窓口、図書リクエスト、図書館協議会など様々な方法で意見を受け取り図書館運営に反映させている。
⑤目標の達成度	4	楽田ふれあい図書館の運営を適切に行い読書の推進を図ることができた。イベントを実施し、地域参加型の図書館として充実させることができた。楽田小学校と連携し子どもの利用数の増加に努めた。
⑥改善の取組状況	4	地域の図書館として気軽に利用ができるよう施設の運営に努めた。楽田小学校と連携し子どもの利用数の増加に努めた。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和4年度に見直しを実施した事項	楽田ふれあい図書館の運営を適切に行い読書の推進を図ることができた。イベントを実施し、地域参加型の図書館として充実させることができた。楽田小学校と連携し子どもの利用数の増加及び図書の貸出数の増加に努めた。
令和5年度に見直しを実施している事項	学校連携の拠点施設として図書館コーディネーターや学校司書と共に授業で使う資料の調達など学校に役立つ図書館づくりと、地域の図書館として地元住民が参加、参画できるイベントを実施し、地域に役立つ図書館づくりを目指す。
今後見直しを検討する事項	地域図書館としての魅力を伝え、地元住人の利用が増加するよう検討する。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和4年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
施設の認知を高めるための情報発信の不足	地域図書館と学校図書館が同じ空間で運営する特徴を活かした図書館づくりを目指し、一人でも多くの市民に利用してもらえるよう、学校や地域との連携に努める。

令和4年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
9	5	5	図書館費	370

部局名	教育部
課名	文化スポーツ課

I : 事業概要

施策事業名	図書館ICT化事業		
事業目的	市民により一層図書館を利用してもらうため、図書館のICT化を進める。		
事業内容	<p>●全体計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 窓口業務を効率化し、貸し出しの際の待ち時間を短縮するため、図書資料にICタグを取り付ける。 図書資料を適正に管理し、利用者の貸し出しニーズに応えるため、セキュリティゲートを設置する。 <p>●主な事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書資料(約24万点)へのICタグの取付け セキュリティゲート等の設置 窓口カウンターにICタグを読み取るリーダーライタの設置 <p>●主な決算の内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> ICタグ購入費 538,333円 ICタグ取付委託 14,226,300円 セキュリティゲート導入委託 6,645,100円 セキュリティゲート借上料(ゲート3台、リーダーライタ9台等) 2,197,140円 		
事業の成果・効果	<ul style="list-style-type: none"> 市立図書館の全ての図書資料約24万点にICタグを貼付した。 窓口カウンターにICタグを読み取るリーダーライターを設置した。 図書資料を適切に管理するため、セキュリティゲートを設置した。 		

II : 個別事業内訳

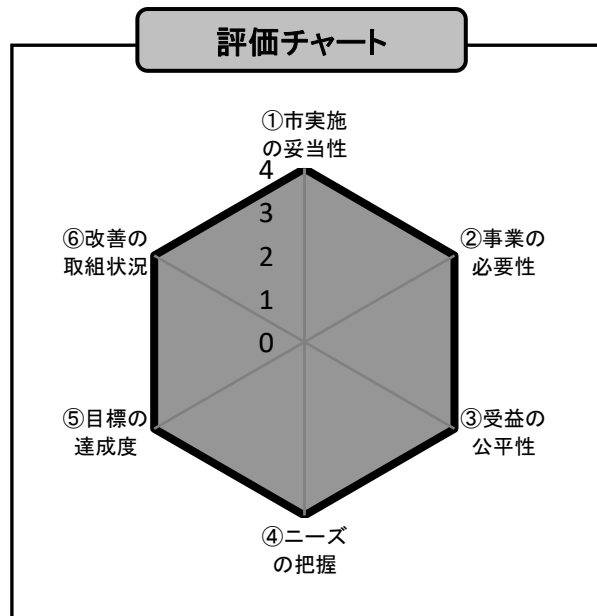
(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
図書館ICT化	24,069	0	24,069	100%	4	4	4
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	24,069	0	24,069	100%	4	4	4

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R3決算	R4決算	R5予算
		-	24,069	12,910
財源内訳	国県支出金	-	0	2,837
	地方債	-	0	0
	その他	-	0	0
	一般財源	-	24,069	10,073
一般財源の割合		-	100%	78%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	図書館法及び犬山市立図書館の設置及び管理に関する条例に基づき市が設置
②事業の必要性	4	図書館は住民の知る欲求に応えるために自治体が設置し運営するものであり、住民が情報を入手し、教育や文化の発展に寄与する場である
③受益の公平性	4	図書館は乳幼児から高齢者まで住民すべてを対象とし、如何なる住民であっても資料提供の求めに応じるものである。
④ニーズの把握	4	図書館は何人でも利用できる施設であり、メール、窓口、図書リクエスト、図書館協議会など様々な方法で意見を受け取り図書館運営に反映させている。
⑤目標の達成度	4	計画どおりに図書24万点にICタグを貼付、リーダーライター及びセキュリティゲートを設置し、ICT化を進めた。
⑥改善の取組状況	4	令和4年度計画分のICT化を完了することができた。ICT化ロードマップに従い業務を遂行していく。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和4年度に見直しを実施した事項	市立図書館の全ての図書資料約24万点にICタグを貼付した。 窓口カウンターにICタグを読み取るリーダーライターを設置した。 図書資料を適切に管理するため、セキュリティゲートを設置した。
令和5年度に見直しを実施している事項	セルフ貸出機、返却機の設置、座席予約システムの導入、視聴覚コーナーの改修により、利用者へのサービスの向上を図る。
今後見直しを検討する事項	図書館のICT化を進め、市民がいつでも気軽に情報を得られるよう図書館機能の充実を図る。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和4年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
・適正なランニングコストの管理	ICT化による図書館の利便性について広く市民に周知し、一層の利用率の向上を図ることで費用対効果を高める。

令和4年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
9	5	6	勤労青少年ホーム費	374

部局名	教育部
課名	文化スポーツ課

I : 事業概要

施策事業名	勤労青少年ホーム
事業目的	勤労青少年ホームを生涯学習の場として有効に活用することにより、市民の教養向上、健康増進を図る。
事業内容	<p>●全体計画 犬山市勤労青少年ホームの貸館業務及び維持管理を適正に行い、市民の自主的な生涯学習の場として有効に活用されるよう施設運営を行う。</p> <p>●主な事業内容 ・施設の貸館業務 ・施設の修繕 ・施設に必要な各種委託 ・施設の営繕工事</p> <p>●主な決算の内訳 ・施設管理業務委託料 7,915,613円 ・光熱水費 973,880円 ・修繕料 720,390円 ・トイレ様式化工事改修工事請負費 2,860,000円 ・営繕工事請負費(空調取替工事) 990,000円</p>
事業の成果・効果	自主的な生涯学習の場を市民に提供するために貸館業務を行った。 施設を良好な状態に保つため、ファシリティマネジメントの視点を取り入れながら、修繕計画により、施設の適正な維持管理を行った。 和式トイレの洋式化工事を行い、和式トイレを利用することが困難な方が、施設を快適に利用することができるようにした。

II : 個別事業内訳

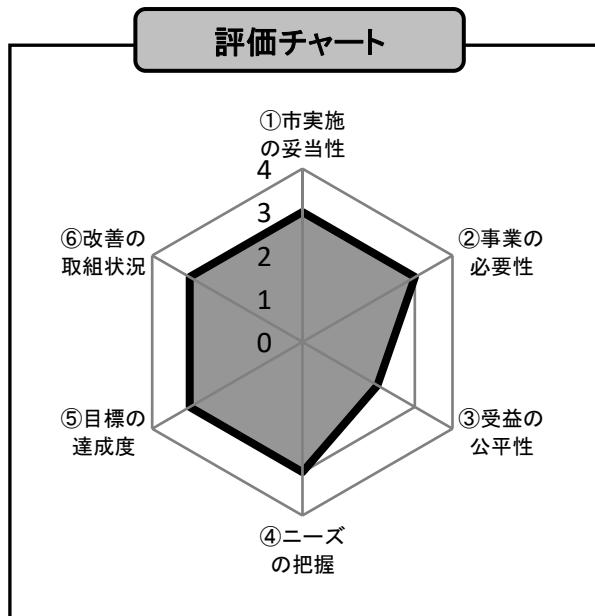
(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
勤労青少年ホーム管理	10,626	62	10,564	99%	4	3	3
勤労青少年ホーム営繕	3,850	0	3,850	100%	3	3	2
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	14,476	62	14,414	100%	3	3	2

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R3決算	R4決算	R5予算
		11,492	14,476	13,348
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	56	62	61
	一般財源	11,436	14,414	13,287
一般財源の割合		100%	100%	100%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	犬山市勤労青少年ホームの設置及び管理に関する条例に基づき設置している。
②事業の必要性	3	市民の教養向上、健康増進等、市民の自主的な学びを支援するために提供している施設であるが、非常時においては縮小もやむを得ない事業である。
③受益の公平性	2	特定の団体の定期的な利用が多いが、無料施設のため、受益者の負担がない。
④ニーズの把握	3	施設には管理人を配置し、常時利用者の声を聴く体制を整えている。
⑤目標の達成度	3	適切な貸館業務と計画的な修繕を実施した。
⑥改善の取組状況	3	ファシリティマネジメントの視点を取り入れながら、老朽化した施設のあり方を検証している。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和4年度に見直しを実施した事項	講習室の空調更新工事を実施し、市の共催事業として実施しているICT講習の受講生が快適に受講できる環境整備を行った。 2階及び3階の男女トイレの和式トイレ1か所ずつを洋式化した。また、1階の男女トイレの洋式便座をシャワートイレにした。
令和5年度に見直しを実施している事項	台風や大雨時に雨漏りが発生するため、東側壁のひび割れ修繕を行う。
今後見直しを検討する事項	利用者や時代のニーズを踏まえた勤労青少年ホームとしてのあり方や、施設・設備の老朽化における優先順位の検討をしていく必要がある。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和4年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
老朽化した施設の安全性の確保と維持管理	今後も優先順位をつけて施設の工事・修繕を適正に実施していく。

令和4年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
9	5	7	市民文化会館費	376

部局名	教育部
課名	文化スポーツ課

I : 事業概要

施策事業名	市民文化会館運営管理
事業目的	芸術文化の拠点施設として発表の場と鑑賞の機会を提供することで、市民の文化の向上を図る。
事業内容	<p>●全体計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民の舞台芸術鑑賞及び発表の場、文化活動の場として貸館業務を行った。 施設を良好な状態に保つため、適正な維持管理を行った。 施設を有効活用するため、大ホールの「舞台貸し」を本格導入した。 <p>●主な事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 犬山市文化協会や音楽文化協会と協力し「市民芸能祭」や「市民音楽祭」など市民、文化団体が発表する場の提供及び参加型の事業を展開した。 施設の適正な営繕管理。 未利用地の活用の視点から、第5駐車場を売却した。 <p>●主な決算の内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> 自主事業委託料 995,500円 工事請負費(練習室2空調改修工事) 1,289,200円 <p>練習室(防音室)の空調を講堂から切り離し、個別空調とすることで、音楽利用等の貸し出し要望に柔軟に対応することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合設備管理業務一括委託料 6,930,000円 施設管理業務委託料 2,352,808円 舞台関係統合管理業務委託料 7,801,200円
事業の成果・効果	<p>○大ホールの舞台のみを1時間1,410円で貸し出す「舞台貸し事業」を本稼働させ、49件66時間の利用があり、174,550円の歳入を得ることができたと共に、利活用されていなかった時間帯を貸し出したことにより、施設を有効活用することができた。(稼働率R3…31.7% R4…51.5%)</p> <p>○練習室2の空調を全館空調から切り離し個別化したことにより、利用者からの貸し出し要望に柔軟に対応することが可能となった。</p> <p>○道路の反対側にあることであまり利活用されていなかった第5駐車場を売却し、売却金額を施設の修繕のための基金に積み立てることができた。</p> <p>○施設を良好な状態に保つため、ファシリティマネジメントの視点を取り入れながら適正な維持管理を行った。</p>

II : 個別事業内訳

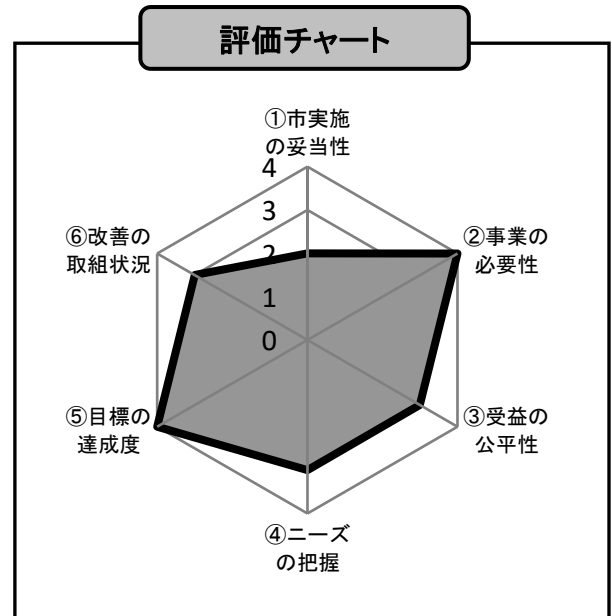
(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
市民文化会館管理	30,005	14,256	15,749	52%	3	3	2
市民文化会館利活用	1,420	21	1,399	99%	3	3	3
市民文化会館営繕	1,289	0	1,289	100%	4	2	4
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	32,714	14,277	18,437	56%	3	2	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R3決算	R4決算	R5予算
		42,459	32,714	39,889
財源内訳	国庫支出金	7,652	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	8,499	14,277	9,197
	一般財源	26,308	18,437	30,692
一般財源の割合		62%	56%	77%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	2	他市町で民間によるサービスの提供が行われている事例があるため、民間委託や指定管理者制度の活用可否について、検討の余地がある。
②事業の必要性	4	市民の豊かな文化的生活と教養に必要な事業である。
③受益の公平性	3	少数の市民しか対象となっていない事業であるが、入場料や使用料など相応の負担を求めて実施している事業である。
④ニーズの把握	3	事業実施時に利用者アンケートを実施し、意見の集約を行っている。
⑤目標の達成度	4	コロナウイルスの感染状況が落ち着いてきたことにより、開催事が増加したことに加え、「舞台貸し」の本稼働により、大ホールの稼働率が向上したため。
⑥改善の取組状況	3	「舞台貸し」を本稼働し、稼働率の向上に寄与した。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和4年度に見直しを実施した事項	<ul style="list-style-type: none"> 「舞台貸し事業」を本稼働し、稼働率の向上に寄与した。 第5駐車場を売却した。 練習室2の空調を個別化したことにより、利用者の貸し出し要望に柔軟に対応することが可能となった。
令和5年度に見直しを実施している事項	<ul style="list-style-type: none"> 大規模改修に際し、専門家の意見を参考にするため、基本設計を行う。
今後見直しを検討する事項	<ul style="list-style-type: none"> 施設の収支バランスを検証し、今後の施設のあり方を引き続き検討していく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和4年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
施設のあり方検討を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 大規模修繕に関して、専門家の意見を参考にしながら、今後の施設のあり方を引き続き検討する。

令和4年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
9	6	1	保健体育総務費	390

部局名	教育部
課名	文化スポーツ課

I : 事業概要

施策事業名	保健体育総務事務
事業目的	市民の健康づくりを目的とし、スポーツ意識の高揚、スポーツの普及・振興を図る。
事業内容	<p>●事業の全体計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ分野の市民の活躍や取組みを一層推進させるための事務事業を実施する。 ・スポーツ基本法第32条に規定のスポーツ推進委員会を中心に、市民に対するスポーツの推進のための事業やスポーツの指導及び助言などを行う。同時に、各委員に対しその職務を全うする上で必要な支援を行う。 ・市民のスポーツの普及のため、市民スポーツ活動を展開し、本市スポーツ振興の中核を担う市体育協会の事業関連経費に対し補助金の交付を行う。 <p>●主な事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・犬山市スポーツ賞授賞式の開催 ・全国大会等出場者激励費の支給 ・スポーツ推進委員事業の推進、協力 ・特定非営利活動法人犬山市体育協会への支援 <p>●主な決算の内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ賞記念品 228,586円 ・スポーツ競技全国大会等出場者賞賜金 620,000円 ・スポーツ推進委員報酬 1,260,000円 ・特定非営利活動法人犬山市体育協会補助金 14,154,816円
事業の成果・効果	生涯スポーツやニュースポーツなど誰もが気軽に参加できるスポーツイベント等の支援は、市民のスポーツに対する関心度や競技力等の向上を目的とした事業計画に基づき概ね実施ができた。犬山市スポーツ賞表彰は、新型コロナウイルス感染症の対策を行い計画どおりに実施した。スポーツ推進委員による各スポーツイベントは計画どおり実施できた。体育協会への各補助や委託について、指導者の育成やジュニア世代での競技力向上などの事業を概ね計画どおりに実施できた。市民大会の開催は、水泳などの競技で新型コロナウイルス感染症への対策ができずに中止としたが、他の競技は予定どおり開催することができた。体協は、近隣市町や市内各組織との連携や、会員のネットワークなどを活かして効果的に事業を展開しており、補助金の交付による効果は大きい。

II : 個別事業内訳

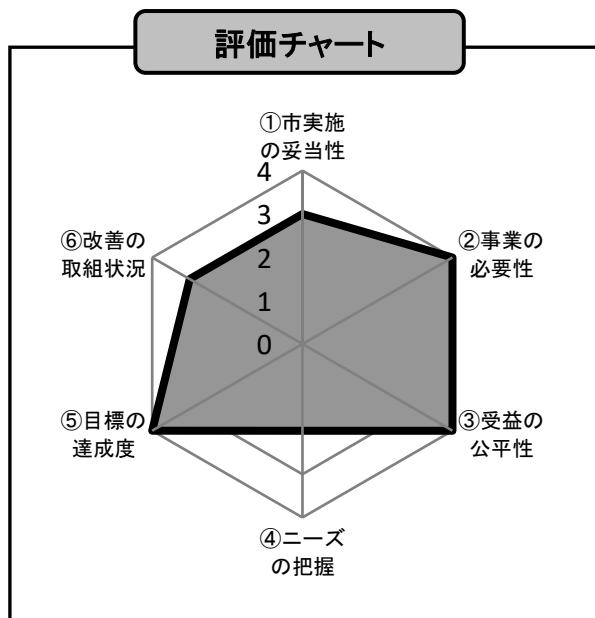
(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
保健体育総務事務	1,188	0	1,188	100%	4	3	3
スポーツ推進委員	1,809	0	1,809	100%	4	3	3
スポーツ団体補助	14,155	0	14,155	100%	4	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	17,152	0	17,152	100%	4	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R3決算	R4決算	R5予算
		15,074	17,152	18,375
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	15,074	17,152	18,375
一般財源の割合		100%	100%	100%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	スポーツ推進委員はスポーツ基本法によりスポーツ推進事業の実施等を役割がある。民間によるスポーツ賞表彰や補助金交付事業によるスポーツをする市民への顕彰・激励は、採算性の面で実施は考えにくい。
②事業の必要性	4	市民が豊かな生活をする上では有効な施策であり、健康増進にも必要な事業である。
③受益の公平性	4	いずれの事業の対象は全市民である。
④ニーズの把握	2	過去にアンケート調査をしているが、近年は実施していないため新たに検討する必要がある。
⑤目標の達成度	4	計画した事業は全て実施し、目標を達成した。
⑥改善の取組状況	3	市民ニーズを捉え、より積極的に事業の展開し、情報発信に努めていく必要がある。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和4年度に見直しを実施した事項	新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえつつ、感染対策を講じて、可能な限りスポーツ大会等を開催・実施した。
令和5年度に見直しを実施している事項	犬山市スポーツ賞について、審査委員会の開催時期を見直し(後ろ倒しにし)、対象者の漏れがないように、また、より確定した内容で審査できるようにする。
今後見直しを検討する事項	市内や近隣地域の類似している事業を把握し、事業自体のあり方やスポーツイベントの開催手法のより効果的な実施手法を研究する。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和4年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
市が実施する各スポーツ事業における収入の確保は非常に困難のため、事業費の見直しや参加費も含め検討していく必要がある。	事業の実施主体(体育協会、スポーツ推進委員連絡協議会等)の効果を最大限に生かしてコストを抑えながら、より費用対効果が高くなるように適宜研究を進めていく。

令和4年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
9	6	2	スポーツ振興費	392

部局名	教育部
課名	文化スポーツ課

I : 事業概要

施策事業名	スポーツ振興
事業目的	市民の健康づくりを目的とし、スポーツ意識の高揚、スポーツの普及・振興を図る。
事業内容	<p>●事業の全体計画 様々な場面で市民が「スポーツに親しむ」、「体を動かす」機会を提供する。</p> <p>●主な事業内容 ・スポーツ施設以外も、市民にスポーツに親し場所として提供するため、学校体育施設開放、市民プール代替事業（モンパブル利用の市民優待）の実施 ・市民が参加できるスポーツ大会（ふれあい運動会、軽スポーツ大会、市民大会）の開催、愛知駅伝の参加 ・マラソン大会（いぬやまランニングフェスティバル）の開催 ・いぬやまスポーツコミッションの事務局運営 ・スポーツの普及・振興のため、スポーツ振興基金の積立等</p> <p>●主な決算の内訳 ・学校体育施設管理業務委託料（10小学校・4中学校・1高校） 1,714,000円 ・いぬやまランニングフェスティバル委託料（会場設営・警備員・看板設置等） 1,443,200円 ・各種市民大会大会委託料（市民大会・愛知駅伝） 3,317,653円 ・スポーツ振興基金積立金 4,136,824円</p>
事業の成果・効果	<p>スポーツ振興では、年間を通して学校体育施設の市民開放事業を実施した。スポーツ大会では、各種市民大会（19競技）とふれあい運動会（意向調査による5小学校）の開催、愛知駅伝（38市が参加）へ参加した。マラソン大会では、新型コロナウイルス感染症の対策を講じていぬやまランニングフェスティバルを3年ぶりに開催（申込者1,740名、参加者1,560人）したが、読売犬山ハーフマラソンは、犬山城下のトンネルの岩盤崩落によりランナーの安全が確保できず、代替えコースの設定もできなかったため中止とした。</p>

II : 個別事業内訳

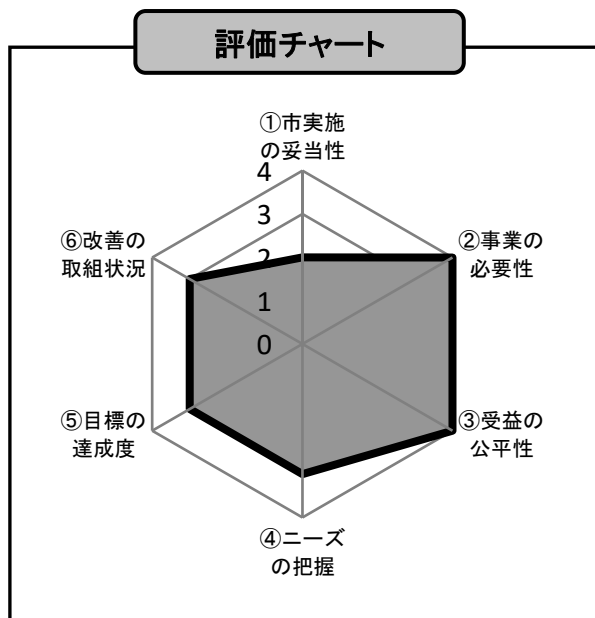
(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
スポーツ振興	2,982	365	2,617	88%	3	4	3
スポーツ大会	4,555	531	4,024	88%	4	3	3
マラソン大会	2,592	2,033	559	22%	3	4	3
スポーツ振興基金積立金	4,137	4,137	0	0%	2	2	2
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	14,266	7,066	7,200	50%	3	3	2

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R3決算	R4決算	R5予算
		14,100	14,266	19,632
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	14,100	7,066	10,968
	一般財源	0	7,200	8,664
一般財源の割合		0%	50%	44%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	2	他の自治体では、マラソン大会や各スポーツ大会事業などを民間が主体となって開催されている事例が多い。
②事業の必要性	4	市民が豊かな生活をする上では有効な施策であり、健康増進にも必要な事業である。
③受益の公平性	4	いずれの事業の対象は全市民である。
④ニーズの把握	3	今年度開催したランニングフェスティバルで参加者にアンケート実施をして、ニーズの把握を行った。
⑤目標の達成度	3	読売犬山ハーフマラソンは中止となったが、他のイベントは実施できた。
⑥改善の取組状況	3	各スポーツイベントの申込方法のより簡素化への検討や老朽化した施設の改修工事のためスポーツ振興基金の活用を検討する必要がある。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和4年度に見直しを実施した事項	ふれあい運動会は、地域やコミュニティの意向を踏まえて学校毎での選択制で実施するよう見直した。いぬやまランニングフェスティバルは、多子・多胎世帯子育て支援事業に絡め、市内の中学生以下で、第3子以降および双子以上の参加を無料とした。また、キャッシュレスによる参加料支払 (PayPay) 導入を実施した。
令和5年度に見直しを実施している事項	スポーツコミッション事業拡大を進めるため、補助メニューや事業展開方針の見直しを行う。読売犬山ハーフマラソンは、岩盤崩落したトンネルの復旧状況を見ながら代替コースでの実施を検討する。
今後見直しを検討する事項	各スポーツ事業については、市内の他の類似事業などを有無の確認し、事業のあり方に対する再考が必要であると判断した場合は、廃止及び別の展開を検討する。新規事業が確認できた場合、他の先行事例の実績を検証し、必要に応じて既存手法の見直しをする。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和4年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
公共サービスとして提供するスポーツ事業で収支バランスを図ることは困難であるため、収入の確保 (参加料の設定など) や事業の圧縮などを視野に入れていく。	行政だけでなく、スポーツコミッションや体育協会など外部関係団体や市民がどのように各種事業に関係して進めていけるかを含め、検討する。

令和4年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
9	6	3	体育施設費	394

部局名	教育部
課名	文化スポーツ課

I : 事業概要

施策事業名	体育施設管理
事業目的	体育施設を有効に活用することにより、市民スポーツ活動の振興を図る。
事業内容	<p>●事業の全体計画 公共スポーツ施設として武道館、弓道場、体育センター、フィットネスフロイデ、木曾川犬山緑地（野球場・テニスコート・多目的グラウンド）、山の田公園（野球場・テニスコート）、野外活動センター、内田多目的広場テニスコートをスポーツ活動・生きがいがづくり・健康づくりの場として提供する。</p> <p>●主な事業内容 ・施設の維持管理 ・施設利用者の利用手続及び指導 ・屋内及び屋外体育施設の営繕工事</p> <p>●主な決算内訳 ・屋内体育施設管理委託料 5,584,143円 ・トレーニングマシン借上料 4,185,516円 ・フィットネスフロイデ管理業務委託料 56,760,000円 ・屋外体育施設管理委託料 15,841,868円 ・木曾川犬山緑地維持管理業務委託料 1,276,000円 ・山の田公園維持管理業務委託料 4,180,000円 ・山の田公園野球場夜間照明取替工事請負費 14,470,500円 ・旧市民プール解体設計業務委託料 3,803,800円</p>
事業の成果・効果	スポーツ活動、健康づくり、交流の場として、使用する上で安全かつ、より快適な環境を維持した市内の屋外及び屋内体育施設を、市民をはじめとする多くの利用者に提供した。

II : 個別事業内訳

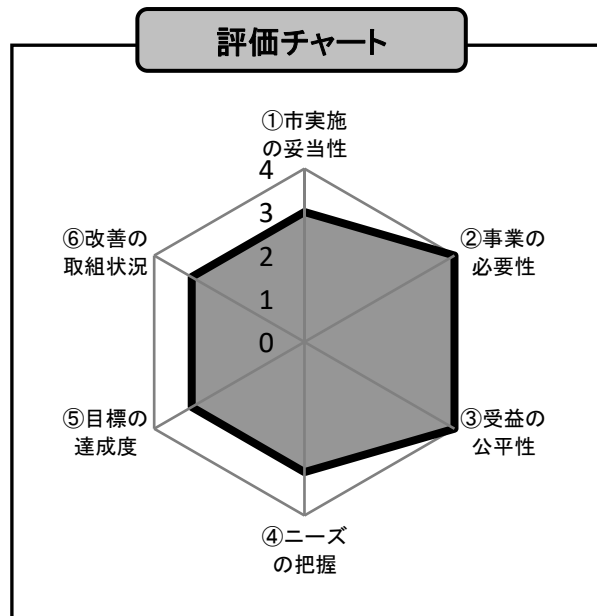
(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
屋内体育施設管理	9,818	4,519	5,299	54%	3	3	2
フィットネスフロイデ管理	69,870	37,335	32,535	47%	3	3	3
屋外体育施設管理	41,858	5,034	36,824	88%	3	3	2
体育施設営繕	19,762	8,370	11,392	58%	3	3	3
旧市民プール解体	3,804	0	3,804	100%	4	4	4
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	145,112	55,258	89,854	62%	3	3	2

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R3決算	R4決算	R5予算
		116,084	145,112	290,454
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	43,798	55,258	230,119
	一般財源	72,286	89,854	60,335
一般財源の割合		62%	62%	21%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	市民に安定的に施設を利用する環境を提供するため、市による施設管理を行う。
②事業の必要性	4	市民が豊かな生活をする上では有効な施策であり、健康増進にも必要な事業である。
③受益の公平性	4	いずれの体育施設の対象は全市民であり、利用の機会を得ることができる。
④ニーズの把握	3	各施設には管理人を設置し、常時利用者からの意見を聞く体制を整えている。
⑤目標の達成度	3	新型コロナウイルス対策を徐々に緩和していき、市民サービスの回復に努めた。昨年度に引き続き、自然災害の影響で、100%の有効活用ができなかった。
⑥改善の取組状況	3	利用者の利便性向上のため、情報発信方法の改善（市ホームページ掲載情報の修正・コロナ対策の配信）や施設環境改善に向けた市民要望の実現に向けた工夫を実施した。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和4年度に見直しを実施した事項	新型コロナウイルス感染症対策を社会情勢を反映したものへ随時更新を行った。施設利用許可申請書様式を施設利用者にとって扱いやすい簡易なものへの見直しを実施した。
令和5年度に見直しを実施している事項	老朽化している各施設の修繕の優先順位の検討や、施設利用方法を市民の方が理解しやすいような手法を検討する。
今後見直しを検討する事項	各施設の利用申請について、空き状況の確認や利用許可申請などの一連の手続きを、施設予約システム上において完結できる方法を検討する。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和4年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着いてきている中で、各施設の稼働率をコロナ禍以前の水準以上に戻すため、施設の利活用を横断的に検討する必要がある。	稼働率の低い施設の現状を把握して、条例・規則や施設機能面などから課題点を抽出し、稼働率の向上を目標に誰もが利用しやすくなるような対策の検討を進める。

令和4年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
9	6	3	体育施設費	394

部局名	教育部
課名	文化スポーツ課

I : 事業概要

施策事業名	包括体育施設管理
事業目的	羽黒中央公園（体育館・多目的スポーツ広場）を適正に管理運営し、活用することで、市民のスポーツ活動の振興を図る。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●事業の全体計画 <ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者による羽黒中央公園（体育館・多目的スポーツ広場など）の管理運営が適正に実施されることで、施設の活性化が図られ、市民のスポーツ活動、生きがづくり、健康づくりの推進を図る。 ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者による羽黒中央公園の管理運営 ●主な決算の内訳 <ul style="list-style-type: none"> ・火災保険料 123,243円 ・羽黒中央公園指定管理料 102,226,300円
事業の成果・効果	指定管理者による施設運営により、スポーツ活動、健康づくり、生きがづくりの場として市民をはじめ多くの利用者への提供ができた。 また、幅広い年代の市民をはじめスポーツに親しむ機会が得られるよう、チアダンス教室、スラックライン教室、トランポリン教室、フットサル教室、卓球教室、オンライントレーニングなどの魅力ある自主事業が展開できた。

II : 個別事業内訳

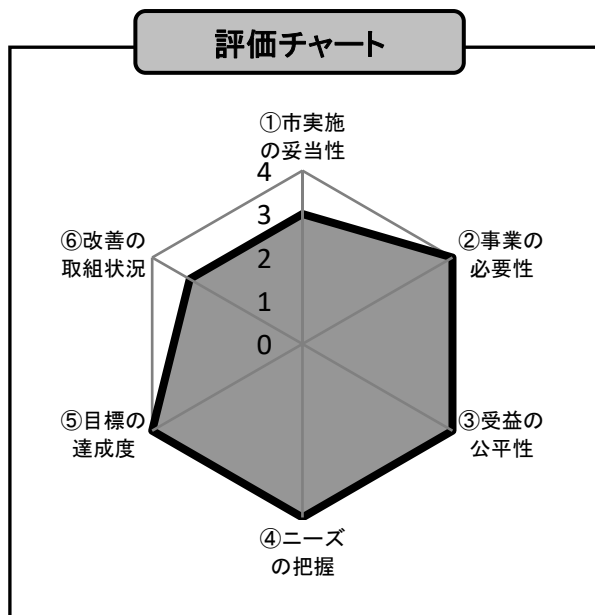
(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
包括体育施設管理	102,350	2,001	100,349	98%	3	4	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	102,350	2,001	100,349	98%	3	4	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R3決算	R4決算	R5予算
		100,645	102,350	105,809
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	14,835	2,001	103,807
	一般財源	85,810	100,349	2,002
一般財源の割合		85%	98%	2%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	専門性が必要な施設であるため、現在の管理体制が妥当である。
②事業の必要性	4	豊かな市民生活を送る上では有効な事業であり、健康増進にも必要な事業である。
③受益の公平性	4	全市民を対象として、恩恵を受けれる機会が得られる事業である。
④ニーズの把握	4	指定管理者制度を導入し、常時利用者の意見を収集できる体制を整えている。
⑤目標の達成度	4	安定した施設管理が実現できた。
⑥改善の取組状況	3	サービスの質向上のため、情報媒体も利用したアンケートを実施し、接遇の向上をはじめ施設環境の改善を行った。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和4年度に見直しを実施した事項	公共施設使用料の見直しに関する基本方針に基づき、令和6年度以降の施設使用料の見直しを行った。 指定管理者からの協議の要望を踏まえ、急激な光熱水費の上昇分を加算した指定管理料を令和5年度の指定管理料に反映させた。
令和5年度に見直しを実施している事項	現時点で実施していない実現可能な自主事業を検討する。
今後見直しを検討する事項	恒久的に施設管理に要する費用と、施設の老朽化が進む状況での改修費用も含めた費用の確保を検討する。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和4年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
効率的、効果的な施設の運営方法の検討 建築年数の経過によるメンテナンス費用の増加に対する対策	施設利用料の一部を将来の改修費用として積み立てているが、今後増大するメンテナンス費用に対してどのようにやりくりをしていくか検討する必要がある